

令和 5 年度審議会の振り返り

No	項目	回数	内容
1	推計	第 1 回	【問】人口推計は他の地域からの転入も見越しているか。 【答】転出入する人を捉えた稼働率も推計に反映している。
2	特別支援教育	第 1 回	【問】特別支援教育についての管理職の理解促進策は。 【答】管理職は研修等を通じて研鑽を深め、職員に寄り添った助言を行っている。
3		第 1 回	【問】若手教員を特別支援級の担任に充てる動きについて、柏市ではどのように取り組んでいるのか。 【答】議論を進めている。
4		第 1 回	特別支援教育を充実させることは重要。保護者の認識も高まっている。
5	施設整備	第 2 回	【問】子どもの数の減少に見合った学校施設の使い方についての検討状況はどうか。 【答】子どもたちの教育環境を第一に考え、今後、この審議会で集中的に議論を進めたい。
6		第 2 回	【問】屋内運動場の空調整備の優先順位は。 【答】今年度と来年度にかけて、全ての小・中学校に設置予定している。
7		第 2 回	【問】長寿命化改良工事と建替えの学校はどう決まるか。 【答】昭和 46 年以前の建物は建替えで対応する。
8		第 2 回	【問】北部地区は児童生徒数が増加見込みだが、今後、学校施設を新設する予定はあるか。 【答】現時点で、新設校の計画はない。
9		第 2 回	施設整備と併せて、教材や教具についても考える必要がある。
10		第 2 回	学校の給食施設の改築よりも、センター方式の方が良いと思う。
11		第 2 回	【問】給食に関して、自校式とセンター方式のメリットとデメリットは。 【答】自校式のメリットは小回りが効き、食育も充実する点が挙げられる。デメリットは人件費や施設面のコストが高くなる点がある。 センター方式のメリットはコストが抑えられる点。デメリットとしては建てる土地を確保する必要がある。
12	通学・学区関係	第 2 回	【問】通学区域の設定は、国の通学距離に関する基準内で考えるのか。 【答】市立学校に通う児童生徒は、現状、全て国が定める通学距離の基準内に収まる。通学上の安全と過度な負担とならない通学距離について審議会で検討を深めたい。
13		第 2 回	【問】自転車通学の運用は学校ごとに判断しているのか。 【答】各学校長が判断している。
14		第 2 回	【問】学区外からの通学はどのように許可しているか。 【答】市内転居や兄弟関係、通学距離等を考慮し許可している。空き教室の関係で制限している学校もある。
15		第 2 回	【問】市内でのスクールバスの運行に係る検討状況は。 【答】今後シミュレーションしたものを審議いただきたい。
16		第 2 回	【問】通学時の見守りを市として対応する必要があると考える。 【答】各学校ごとに子どもの安全を第一に引き続き対応する。
17		第 2 回	【問】学区と福祉行政や防災上の地区とが異なっているが、どうか。 【答】通学区域は、歴史的な経緯や道路の形状等で決められており、子ども達に与える影響は非常に大きいため、一朝一夕に解決が困難な課題と捉えている。
18	いじめ	第 2 回	【問】いじめの「解消」はどのように判断するのか。 【答】心理的又は物理的影響が病んでいる状態が 3 か月継続している。また、心身に苦痛が感じられていない状態。

令和 5 年度審議会の振り返り

No	項目	回数	内容
19	市立柏高等学校	第 2 回	【問】高校の普通科の見直しや特色化について動きは色々ある。柏市としての将来構想はあるか。 【答】育てたい生徒像、第 3 次教育計画の 3 本の矢の項目において、柏で育てる・柏を支える市立高校を目指す。
20	子どもの居場所づくり	第 1 回	不登校となった児童生徒に学ぶ機会を提供する方策として、学びの多様化学校もある。
21		第 2 回	【問】 小学生は部活がなく放課後の居場所が不足 。図書館や遊び場のある児童センターを設置した方がよい。 【答】放課後子ども教室を居場所型へ転換し、平日誰でも来られる居場所にしたいと考え、全校で整備を行う予定。
22		第 2 回	【問】学習支援事業は、市のこども福祉課が実施している事業か。 【答】こども部と福祉部で行っている。こども部は小中学生コース、福祉部は中高生コースを実施。
23		第 2 回	【問】旧そごうアネックス館の子どもの居場所に関連した施設の進捗状況は。 【答】中高生の意見を聞きながら検討中。建物の内装は設計を進めている。具体的なサービス内容は、社会教育会議等でコンセプトを整えて、年内中に旧そごうアネックス館 5 階に開館したい。
24	目指す子ども像	第 3 回	「個の資質」と「他者との関わり」の両方を網羅することがウェルビーイング。目指す子ども像にも「他者との関わり」の要素を入れたほうが良いのでは。
25		第 3 回	「自己肯定感」を「自他ともに尊重する」等、解釈を一致させるためにも具体的な文言を用いた方がよい。
26		第 3 回	昨今、比較、競争意識によりエネルギーが減少している子どもが多いため、 「自己肯定感」 というワードは良い。
27		第 3 回	柏市ならではの独自性 を取り入れるべきでは。
28		第 3 回	SNS の普及により比較頻度、比較対象が増えたことが自己肯定感の低下につながっている。現実世界の結びつきが大切。
29		第 3 回	心身の健康 がベースにないと勉学に繋がらない。自己肯定感を高めるためには、存在意義を感じられる日常が必要。
30		第 3 回	勉強する意欲はあるが、学校になじめなくて不登校となるケースがある。自己肯定感を高めることにより解消されるかは疑問。
31	教育課程	第 2 回	【問】小中一貫のカリキュラムの中で私立中学校への転出も想定しているか。 【答】公立の小中一貫校なので、前期課程 6 年間で小学校課程のカリキュラムを終えるよう設定する。
32		第 3 回	学習指導要領の範囲内で、 柏市独自の新しい視点を持った教育課程 を組むことも 1 つの案と考える。
33		第 3 回	学校内に人を含め安心安全な居場所 をつくることを大前提とした上で、授業内容を検討していく必要がある。
34	学校運営	第 1 回	【問】クラス替えのタイミングや運動会の実施方法は、市内で学校ごとに異なるのか。 【答】児童生徒の実態、地域性、学校の教育目標、目指す子ども像などを複合的に考慮し、各学校で判断している。
35	調査関係	第 2 回	【問】令和 4 年度の学力調査の結果は、急激に下がったという解釈でよいか。 【答】平成 26 年度から令和元年度は同じ問題を出題していたが、令和 3 年度には問題を変更。また、これまでは 4 月に調査していたが、令和 4 年度からは 11 月実施にし、調査会社も変更した。結果に違いが出る原因は、その辺りの違いがある。

令和 5 年度審議会の振り返り

No	項目	回数	内容
36		第 2 回	【問】生活・意識調査について、令和 3 年度よりも 4 年度の数値が高い理由は何か。 【答】これから分析を進める。
37		第 2 回	【問】「4 つの C」はどのように調査しているのか。 【答】オンラインで子ども達が各質問に答える形で実施。この他にも、30 問程度のテストを実施。
38	学校規模	第 1 回	学校規模を小さくすればよいという話もあるが、将来の学校教育を考え、知恵を絞らないといけない。
39		第 3 回	小規模校を避けて他の学校に就学する人が多く、小規模校化が加速している。
40		第 3 回	学区外就学を様々なパターンから検討していく必要がある。
41		第 3 回	将来的な地域の在り方にも関連してくる。短期的な視点、中・長期的な視点から検討していく必要がある。
42	アンケート	第 2 回	【問】アンケートの設問数は 20 問とあるが、どういった構成か。 【答】子ども達、保護者、教職員などが将来にわたって学校教育にどのようなことを期待するかや、施設、通学距離や時間についての考えを確認したい。
43		第 2 回	【問】アンケートと審議会との関係は。 【答】アンケートは参考資料として活用し、審議会での議論を深めていただきたい。
44		第 2 回	アンケートは、意思決定する時の大きな根拠になるため、どういう設問を設定するかが大事。誘導的にならないように注意が必要。議論をサポートするような設問を設定し、設定した理由を説明できるようにしたほうが良い。
45		第 2 回	集計の際、児童生徒の結果、保護者の結果等、対象者ごとに結果がわかるように整理して欲しい。小・中・高校生ごとの結果や学年ごとの結果等を把握することができると、審議を進める上で参考になる。
46		第 2 回	【問】アンケートの対象は、小・中学生とその保護者、あとは誰が対象になるか。 【答】教職員と学校運営協議会委員。
47		第 3 回	■目的を具体的にしていく必要があるのではないかな。 ■柏市立学校の良さを学校関係者がどう捉えているか確認するのも良いのではないかな。 ■学校の特色に関する設問を盛り込んでもよいのではないかな。
48		第 1 回	【問】中 1 ギャップの原因は何か。 【答】小学校から中学校への進学に際して、学校の文化の違いにより、新しい学習環境への生活に移行する段階で、うまくなじむことができないこと
49	その他	第 1 回	【問】小 1 プロブレムの原因は何か。 【答】コロナ禍で、人と関わる機会や経験が不足し、色々な体験ができないまま小学校に入学することが大きい。また、小学校との交流活動の機会が減り、小学校への憧れや希望を持ちにくくなったことも一因。
50		第 1 回	データを単純に比較することより、その子たちがどう成長していったかに目を向けた方が良い。
51		第 1 回	【問】義務教育学校で勤務する場合、小・中両方の免許を取得しなければならないのか。 【答】国の通知では、当面の間は小・中学校どちらかの免許があれば、義務教育学校での勤務は可能と示されている。
52		第 2 回	会議としての意見を積み上げ、残すことが大切。